Title	社会性の育成に於ける幼・小関連教育に関する考察 : 日本の子どもの社会性の認識の発達
Author(s)	川村, 登喜子
Citation	聖学院大学論叢, 6: 63-80
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=696
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

社会性の育成に於ける幼・小関連教育に関する考察

——日本の子どもの社会性の認識の発達——

川　村　登喜子

Considerations to Promote Socialization Nature in Relation to Kindergarten and Elementary School

——Development of Recognition of Socialization Nature in Japanese Children——

Tokiko KAWAMURA

Socialization is an important part of education in kindergartens as much as in elementary schools. It requires a long-term perspective of development and consistency of education. Until recently, the major part of socialization study in Japan has been concentrated in the area of basic living habits, human relations, feeling and doing. Socialization nature, however, will have to consider the intellectual element.

This study analyzes the development of socialization recognition from infancy to childhood. A data source of this analysis is from questionnaires which were provided to children ranging from 3 years to 10 years old. Currently, this study is in the pre-test stage, but a few developments in social phenomena have already been seen. We intend to further pursue the analysis of contents of this inquiry and its result.

はじめに

社会性の育成は幼稚園教育の重要な目標であるが，これは小学校においても重視されている。子どもの教育においては長期的展望に基づく一貫性と発展性が重要であると考える。本研究の目的は幼児期から児童期に亘る社会性の認識の発達過程を詳細に観察し，吟味検討することによって，今後の幼・小関連教育に若干の示唆を与えることである。

Key words; Socialization, Recognition, Kindergarten, Elementary School, Development

研究の目的

これまでの日本における子どもの社会性に関する研究の主なものは「社会的適応性」を発達課題と考え，社会生活に必要な能力として，基本的生活習慣に始まり，対人関係，感情，行動等がその主なものであった。しかし，社会性の問題を考える場合には，子どもの行動側面に知的行動側面も合せて観察することが必要である。

社会性とは，個人がその社会生活を行っていく上で必要にしてかつ十分に望ましい知識，意識，態度，能力等を習得していく過程を云う。云いかえれば，社会性とは情動的，対人的，知的行動表出などで生ずる発達的変化を統合したものと考えることである。

知的行動側面における子どもの認識の発達研究では Piaget（1972）の Genetic Epistemology（発生的認識論）があげられる。彼は子どもの認識を発生的に研究し，認識のより低いレベルからより高いレベルに変化していく方法論を研究し，知的発達の変化，思考の脱中心化と，環境の諸要因が影響をもたらす認識力の発達段階や知識体系獲得の過程を明らかにした。

認識を考える場合には当然「道徳」もその範疇に入ってくる。Piaget の道徳に関する概念の定義は，基本的な社会的行動様式の共通理解を「道徳」と云う一種の社会規範であるとしている。最近日本でもこの知的側面の研究をとりあげ，認知の一側面として，適切な判断力—愛他行動の研究（祐宗・堂野・松崎，1983，中里，1985）が行われている。このように子どもの認識を考える場合には，当然道徳の問題も総合的にとらえていかなければならない。

これら Piaget その他の研究をふまえながらここでとりあげようとしているのは，日本の社会における（日本の生活環境，文化を背景とした）子どもの認識の成立過程である。すなわち幼児期から児童期に亘る社会性の認識の発達過程を上記に掲げたような視点から，社会性にかかわる子どもの認識の成立過程を質問紙法による調査によって測定調査し，なんらかの指標を作成する。これはあくまでも現時点では試作の段階であるが，質問内容・方法等に検討を加えながら標準化の方向に研究を進めてゆきたい。

研究方法及び内容

(B)客観的認識→(C)主体的認識→(d)体験的認識に至る発達過程における幼児期から児童期に亘る認識の発達基準を作成する（註Ⅰ）。子どもが社会事象の認識を身近なことがらを通してどのようにとらえているのかを実態的に把握するため次のような予備調査を行った。

予備調査〔Ⅰ〕

1．調査対象児：7歳～8歳各年令児25名ずつ

2．調査期間：昭和63年2月

3．調査区域：東北地域

4．調査方法：質問紙法により子どもが回答用紙に記入した。

5．分析結果：表1に示された質問項目及び回答の検討を行った。回答が画一的なものはカットし，新たに必要と思われる質問を加え質問紙を表2のように再度作成した。

表1　予備調査質問項目

1．対人関係（対おとな）

(1) あなたのおうちにいる人の名前をいって下さい。
(2) あなたのおとうさんのお仕事はなんですか？
　あなたのおかあさんのお仕事はなんですか？
(3) お父さんはあなたのために何をしてくれていますか？
　お母さんはあなたのために何をしてくれていますか？
(4) あなたはお父さんのために何かしてあげていることがありますか？
　あなたはお母さんのために何かしてあげていることがありますか？
(5) 一番えらいと思う人はだれですか？　それはどうしてですか？
(6) 先生はあなたのために何をしてくれていますか？
(7) あなたは，先生のために何かしてあげられることがありますか？
(8) 近所でよく知っている人はだれですか？
(9) 近所の○○さんは，あなたに何をしてくれていますか？

1－①対人関係（対子ども）

(1) 仲よしのお友だちの名前をいって下さい。
(2) あなたは，お友だちが泣いていたらどうしますか？
　あなたは，お友だちが悲しんでいたらどうしますか？
(3) お友だちが，あなたの大事なものを貸してほしいといったらどうしますか？
(4) 小さい子が一人で泣いていたらどうしますか？

2．自己認識

(1) あなたの名前は何といいますか？
(2) あなたは男ですか，女ですか？
(3) あなたがいつもほめられるのはどんなことですか？（幼のみ）
　あなたが自慢できることはなんですか？（小のみ）
(4) 死ぬということはどんなことでしょう？
(5) 生きているということはどういうことですか？
(6) あなたとお友達の考えは同じですか？　それは何故違うのですか？
(7) あなたは，自分の考えはいつも正しいと考えますか？
(8) あなたは大きくなったら何になりたいですか？

3．物との関係

(1) あなたが一番大事にしているものは何ですか？
(2) お金は何のためにありますか？
(3) 欲しいものがあったらどうしますか？

4．事　　象

(1) あなたの住んでいる国は何といいますか？
(2) 知っている外国の名前をあげて下さい。
(3) 天気予報は何のためにありますか？
(4) 募金をしたことがありますか？　どうして募金をするのですか？
(5) どんなニュースを覚えていますか？
(6) 世のなかのために働いている人とはどんな人をいいますか？
(7) 幼稚園（保）で働いている人はどんな人たちですか？
　小学校で働いている人はどんな人たちですか？
(8) 自分の住んでいる町の名前をいって下さい。
(9) 隣の町の名前をいって下さい。（小のみ）
(10) 世の中のためになる仕事にはどんな仕事がありますか？
(11) どんな仕事がありますか？　知っている仕事をあげて下さい。
(12) どこで遊びますか？

表2　プレテスト・質問項目

①　自己認識

(1) あなたの名前は何といいますか。
(2) あなたは男ですか，女ですか。
(3) あなたがいつもほめられるのはどんなことですか。
(4) あなたが，他の人よりこんなことができるということはどんなことですか。
(5) 死ぬということはどんなことでしょう。
(6) 生きているということはどういうことですか。
(7) あなたとお友達の考えは同じですか。
　（違うと答えた場合）それは何故ですか。
(8) あなたは自分の考えはいつも正しいと考えますか。それは何故ですか。
(9) あなたは大きくなったら何になりたいですか。それは何故ですか。

②－1　他者認識（対おとな）

(1) あなたのお家にいる人の名前をいって下さい。
(2) あなたのおとうさんのお仕事はなんですか。
　おとうさんはどうしてお仕事をするのですか。
　あなたのおかあさんのお仕事はなんですか。
　おかあさんはどうしてお仕事をするのですか。
(3) おとうさんは，あなたのために何をしてくれていますか。
　おかあさんは，あなたのために何をしてくれていますか。
(4) あなたは，おとうさんのために何かしてあげていることがありますか。
　あなたは，おかあさんのために何かしてあげていることがありますか。
(5) 世界中で一番えらいと思う人はだれですか。それはどうしてですか。
(6) 先生はあなたのために何をしてくれていますか。

(7) あなたは，先生のために何かしてあげられることがありますか。

②－2　他者認識（対子ども）

(1) 仲よしのお友達の名前をいって下さい。
(2) あなたは，お友達が泣いていたらどうしますか。
(3) 近所でよく知っているお友達はだれですか。
(4) 近所の○○さんはあなたに何をしてくれていますか。
(5) あなたはお友達が困っていたらどうしますか。
(6) お友達が，あなたの大事なものを貸してほしい，といったらどうしますか。
(7) 小さい子が一人で泣いていたらどうしますか。

③　物との関係

(1) 欲しいものがあったらどうしますか。
(2) あなたが一番大事にしているものは何ですか。
(3) お金はどうしてお家にあるのでしょう。

(4)　社会事象

(1) あなたの住んでいる国は何といいますか。
(2) 知っている外国の名前をあげて下さい。
(3) 天気予報は何のためにありますか。
(4) 募金をしたことがありますか。どうして募金をするのですか。
(5) どんなニュースを知っていますか。
(6) 自分の住んでいる町の名前をいって下さい。
(7) 隣の町の名前をいって下さい。
(8) みんなのためになる仕事をしている人をあげてください。
(9) 遊べるところにはどんなところがありますか。

予備調査〔Ⅱ〕

1．対象児：4歳～8歳児各年令40名ずつ

2．調査期間：平成1年10月～平成2年1月

3．調査区域：関東，中部地域

4．調査方法：質問紙法。4歳～6歳児は保育者が面接において子どもの回答そのままを記録した。7歳～8歳児は子ども自身が回答用紙に記入した。

5．質問項目：①自己認識，②他者認識，③物との関係，④社会事象の4分類項目とした。

6．分析結果：質問内容と年令の妥当性の検討を行った。

(1) 小学校3年生頃から社会性の発達の変化期になるのではないかということがうかがわれた。次回から調査対象児の範囲を3歳から10歳に広げることにした。

(2) 新たな質問項目「生物との関わり」を加えた。〔表3〕これは子どもが「生」と「死」の問題を何歳から関心をもち始めるかを観察するためである。

表3　調査項目

1．自己認識

幼小〈1〉あなたの名前は何といいますか。　幼小〈2〉あなたは，男ですか，女ですか。
幼小〈3〉あなたがほめられるのはどんなことですか。
幼小〈4〉あなたが他の人よりこんなことができるということはどんなことですか。
小〈5〉－①あなたとお友達の考えは同じですか。　②それは何故ですか。
幼小〈6〉－①あなたは自分の考えはいつも正しいと思いますか。　②それは何故ですか。
幼小〈7〉－①あなたは大きくなったら何になりたいですか。　②それは何故ですか。
小〈8〉あなたは自分をどういう人だと思いますか。

2－(1)　他者認識（対おとな）

幼〈9〉あなたのお家にいる人の名前を言って下さい。
幼小〈10〉－①あなたのおとうさんのお仕事は何ですか。　②おとうさんはどうしてお仕事をするのですか。
幼小〈11〉－①あなたのおかあさんのお仕事は何ですか。　②おかあさんはどうしてお仕事をするのですか。
幼小〈12〉－①あなたはおとうさんのために何かしてあげていることがありますか。　②あなたはおかあさんのために何かしてあげていることがありますか。
幼小〈13〉－①世界中で一番えらいと思う人はだれですか。　②それはどうしてですか。
幼小〈14〉先生はあなたのために何をしてくれていますか。
幼小〈15〉あなたは先生のために何かしてあげられることがありますか。
幼小〈16〉どういう人を“おとな”だと思いますか。
幼小〈17〉－①おとなの考えはいつも正しいと思いますか。　②それはどうしてですか。

2－(2)　他者認識（対子ども）

幼小〈18〉仲よしのお友だちの名前をいって下さい。
幼小〈19〉あなたは小さい子が泣いていたらどうしますか。
幼小〈20〉あなたはお友だちがこまっていたらどうしますか。
幼小〈21〉お友だちが，あなたのだいじなものをかしてほしい，といったらどうしますか。
幼小〈22〉きまりを守らないお友だちを見たらどうしますか。
幼小〈23〉“お友だち”とはどういう人ですか。

3．生物との関係

幼小〈24〉“いのち”とは何でしょう。　幼〈25〉草や花は生きていると思いますか。
幼小〈26〉“生きている”とはどういうことですか。
幼小〈27〉“死ぬ”ということはどういうことですか。
幼小〈28〉いのちのあるものを人間が食べることをどう思いますか。

4．物との関係

幼小〈29〉ほしいモノがあったらどうしますか。
幼小〈30〉あなたが一番たいせつにしているモノは何ですか。
幼小〈31〉お金はどうしてお家にあるのでしょう。
幼小〈32〉人間が生きていくために，どうしても必要（ひつよう）なモノは何でしょう。

5．社会事象

幼小〈33〉知っている外国の名前をあげてください。
幼小〈34〉天気予報は何のためにありますか。
幼小〈35〉－①募金（ぼきん）をしたことがありますか。　②どうして募金（ぼきん）をするのですか。
幼小〈36〉－①どんなニュースを知っていますか。　②どうしてニュースが必要（ひつよう）なのでしょう。
幼小〈37〉あなたが知っている町の名前をいって下さい。
幼小〈38〉となりの町の名前をいって下さい。
幼小〈39〉みんなのためになる仕事をしている人をあげて下さい。
幼小〈40〉あそんでよい場所（ばしょ）はどんなところがありますか。
幼小〈41〉“日本”とはどういう国だと考えますか。
小〈42〉－①あなたは大きくなったらどんな仕事がしたいですか。　②それはどうしてですか。
幼小〈43〉あなたがみんなのためにできることは何ですか。
小〈44〉あなたが国際社会（こくさいしゃかい）のなかで役立つことは，どんなことだと思いますか。
幼小〈45〉りっぱな人とはどういう人をいいますか。
幼小〈46〉－①地球がよごれていることを知っていますか。　②どんなところがよごれていますか。　③どうしたらきれいになるでしょう。

予備調査〔Ⅲ〕

1．対象児：3歳～10歳各年令40名ずつ

2．調査期間：平成2年3月～平成2年11月

3．調査区域：関東，中部地域

4．調査方法：質問紙法。3歳～6歳児は保育者が面接を行い，子どもの回答そのままを記録した。7歳～10歳児は子どもが回答用紙に記入した。

5．分析結果：その(1)

資料の中からNo. 17，26，41の質問項目を取り上げ，分析過程の中から各年令児の認識の芽生えとその発達的変化を観察することにする。

調査項目の(2)，他者認識（対おとな）について

幼・小〈17〉－①「おとなの考えはいつも正しいと思いますか」

②「それはどうしてですか」

3歳児－①思う。あってる。わかんない。

②頭がいいから。大きくてかっこいい。

4歳児－①正しい。正しくない。

②おとなはいろんなことを知ってるから。わかりません。

5歳児－①思う。正しい。わかりません。

②教えてくれるから。良いことを云うから。

6歳児－①正しい。良い。正しくない。

②宿題の間違いを正してくれるから。おとなは子どもよりも何でも知ってるから。考えが違うときがある。

7歳児－①思う。正しい。

②おとなはいろいろの経験がある。

8歳児－①思う。正しい。ちょっと正しくない。正しくない。

②おとなだから。えらいから。

9歳児－①はい。たまに。

②間違えるときがある。へんなことをする。あたりまえのことを云ってくれるから。

10歳児－①思う。いいえ。思わない。正しいときもある。分らない。

②いいことも悪いこともある。それぞれの考えがある。違うことを云うかも知れないから。分らない。しっかりしているから。

4歳児から「おとなは正しくない」と云う考えが出てきている。10歳児では「いいことも悪いこともある」などの批判力が芽生えてきている。

(3) 生物との関係について

幼・小No.〈26〉「生きているとはどういうことですか」

3歳児－御飯を一杯食べて元気なこと。自分がずっと生きている。

4歳児－人が歩いたり走ったり成長するもの。球根とか花とか土の中にもぐって花が咲く。

5歳児－空気を吸える。死んでないこと。花は咲いてすぐ枯れてしまう。

6歳児－死んでないこと。生きてなきゃ動けない。

7歳児－幸せなこと。死んでない。

8歳児－心臓が動いている。生きるは生きる。

9歳児－考えることができる。生命がある。

10歳児－生きていること。失うとお金で買えない。大切なこと。

7歳児では「幸せなこと」の答えが多く，10歳児では「大切なこと」の答えが多かった。3歳児でもすでに「生」に関する認識の芽生えが見られるのに7歳児，10歳児にはっきり認識されていない子ども達もいる。これは環境の影響も考えられよう。

(4) 社会事象との関係について

幼・小No.〈41〉「日本とはどういう国だと考えますか」

3歳児—よい国。

4歳児—悪い者がいたり，地図があったり，川があったり，今私達の住んでいるところ。

5歳児—平和な国。

6歳児—幸せな国。季節がわりのある国。発達している国。とても便利な場所。すごい国だけど小

さい国。

7歳児—いい国。お金とかがある国。幸せな国。狭い国。世界で一番狭い国。

8歳児—すこし悪い国。神が守ってくれる国。ごみがよく出る国。狭い国。

9歳児—乱暴な国。いい国。狭い国。

10歳児—小さい国。狭い国。良い国。住みやすい国。汚ない国。木をどんどん使う悪い国。悪い人がいるから悪い国。

8歳児から「悪い国」などの批判の芽が出てきている。

分析結果：その(2)

(1) 年令別に30％以上の子どもが答えられなかった設問,「無回答」,「分らない」の回答を取り出し検討してみた。分析対象児を4歳～10歳児とした。

(2) 他者認識

幼・小〈10〉—②「お父さんはどうしてお仕事をするのですか」

4歳児の30％以上無回答。

幼・小〈11〉—②「お母さんはどうしてお仕事をするのですか」

4歳児と9歳児は無回答が30％以上。

4歳児ではまだ身辺で働いている母親の仕事というのが認識されていないのであろう。9歳児では「仕事」という意味を考え出す時期に入ったと云えるのではなかろうか。

幼・小〈13〉—①「世界で一番えらいと思う人は誰ですか」

4歳，5歳，6歳児—「お父さん，お母さん」

7歳児—「天皇陛下」が増えてくる。

8歳児—「神様」が増えてくる。

幼・小〈13〉—②「それはどうしてですか」

10歳児—「えらいから」,「日本を守る」

全年令児を通して凡んど明確な答えが出ていない。「えらい人」の認識は4，5，6歳児では身近な父母であるとみる。

(3) 生物との関係について

幼・小〈26〉—「生きていることはどういうことですか」

4歳児—「ごはんを一杯食べること」,「まだ死んでいないこと」,「歩くこと」,「大きくなっていくこと」

9歳児—「いいこと」,「知らない」,「心臓が動いている」,「いろいろな人に会ったりする」というあいまいな答えが多い。

(4) 社会事象との関係について

幼・小〈36〉—②「どうしてニュースが必要なのでしょう」

4歳児―「天気予報が分るから」,「死ぬ人が分るから」

9歳児―理由をはっきり述べていない。

10歳児―「色々な出来事を知るため」,「世の中を知るため」,「よその国のことを知りたい」

幼・小〈38〉「隣の町の名前を云って下さい」

4歳, 7歳, 9歳, 10歳児無回答。

これは現代の交通の多様化, 近代化に伴い, 隣の町という認識があまりなくなってきたためであろう。

幼・小〈41〉－「日本とはどういう国だと考えますか」

4, 5, 6歳児－ほとんどが無回答。

小〈42〉－「あなたは大きくなったらどんな仕事がしたいですか」

7歳児―「パン屋」,「本屋」,「サラリーマン」,「幼稚園の先生」,「花屋」,「看護婦さん」

8歳児―「野球選手」,「リポーター」,「証券会社」,「ペットショップ」,「歌手」,「医者」等。

9歳児―「分らない」,「まだ決めていない」,「汗が流れる仕事」

10歳児―「分らない」,「父の後継ぎ」

8～9歳児あたりから現実感をもって自分の将来を考え出している。

小〈44〉－「あなたがこくさいしゃかいで役立つことはどんなことだと思いますか」

8歳児―「わからない」60％以上

9歳児―「わからない」70％以上

10歳児―「わからない」40％以上

9歳児の答えに不明瞭なのが多い。

幼・小〈46〉－①「地球がよごれているのを知っていますか」

－②「どんなところがよごれているのでしょう」

－③「どうしたらきれいになるのでしょう」

4歳, 5歳, 6歳児－①「知っている」,「知らない」

②, ③は無回答。

7歳児―②「川」,「海」,「空」

③「煙突の煙をとめればいい」,「ごみを捨てなくする」

現段階では調査対象児数が限られており, 調査区域にも片寄りがあり, この資料のみで全体的傾向を観ることはできない。しかしこの分析の初段階からではあるが, 大まかな発達的変化の傾向を観ることはできよう。

特に9歳児の段階で回答に下降現象が表れている。小学校3年生頃から社会性の発達の変化期〔論理的思考の発達と知覚による支配からの脱却期〕に入ると云われているが, 本調査でもわずかな資料からこのような変化が観られるので, 発達的変化があると推察できるのではあるまいか。

「社会事象」の分類項目では，幼稚園児と小学校児童との差のようなものが表れている。これは年令的発達変化に加えて，やはり小学校では教育機関として教科指導が行われているのであるから，当然発達的変化に加えて教育的効果も表れていると考えられる。

しかし幼稚園によっては社会事象の認識を促すような指導，働きかけを行っているところがあることが調査で明らかになった。

表4 「世界で一番えらいと思う人は誰ですか？」
「それはどうしてですか？」に対する回答例

（男児の回答から抜粋）

4さい
男：たくちゃん［お友達］（いつも遊んでくれるから）
　きょへいくん（いつも弟のゆうやくんや，まゆみちゃんと遊んであげてる）
　あいこちゃん［お友達］（お手伝いしてくれるから）
　父さん（仕事がスラスラとできるから）
　大統領
　パパ（何でも出来るから）
　てるとしくん（いいことしてくれたから）
　おじいちゃん（僕のおじいちゃんだから）
5さい
男：王様（ひげがはえてて，えらいことを知っているから）
　お父さん（いつもお仕事をちゃんとしているから）
　お父さんとお母さん（お勉強とかするから）
　神様
　お父さん（お仕事一杯出来るから）
　ぼく（お父さんの足トントンとかはしをもってくるから）
6さい
男：お父さん（仕事をやるから）
　知らない
　キュリー夫人（勉強をいつもしているから）
　金持ちの人（なんでも買えるから）
　わかりません
　お父さん
　ない（知らないから）
　お父さん（走る練習を一緒にしてくれる）
7さい
男：きよしさま
　天皇陛下（有名だから）
　天皇陛下（有名だから）
　ニュートン（引力を発見したから）
　王様（最初は働いていたから）
　天皇陛下（天皇陛下が死んだら平成に変わった）
　先生（なんでも分かるから）
　天皇陛下（いい人だから）

8さい
男：天皇陛下（日本でも一番えらいし外国陛下のことを一杯知ってるから）
父，母（わからない）
天皇陛下（有名だから）
神様（いいこだから）
神様（えらいから）
神様，仏様（有名だから）
神様（有名だから）
神様（わからない）
9さい
男：神様（この世を作った人だから）
わからない
天皇陛下（日本を守るから）
警察（交通整理をするから）
天皇陛下（天皇陛下が死んだだけですぐテレビで放送していたから）
天皇陛下（わからない）
アイルトン・セナ［Ｆ１レーサー］（冷静に判断するから）
両親（ごはんを作ってくれるから）
10さい
男：両親（一番僕の為にしてくれるから）
天皇陛下（わからない）
両親（仕事をしていて僕たちが生きているようにしてくれる）
かぜ（えらいから）
わからない
お釈迦様（わからない）
天皇陛下（えらいから）
天皇陛下（日本を守る為）

分析結果：その(3)

質問項目の他者認識（子ども）の質問項目から回答率の高かった設問を取り出し，その回答に子どもの思考が読みとれるものを選んで分析，考察した。

幼・小〈20〉－「あなたはお友達が困っていたらどうしますか」

4歳，5歳児―「どうしたの」という問いかけのみ。

6歳児―「一緒にやってあげる」，等他者の立場に立って考えようとする回答が出てきている。

7歳児―「どうにかしてあげられるならしてあげる」等，自分の能力を考えた上での条件つきの回答。

8歳児―積極的な援助の回答の他に「ほっとく」，「無視する」という現実の難しさを考えたような回答が表れている。

9歳児―「機嫌のいい時は助ける」という回答とは別に「助けるけど，できないことは分らない」，

「どうして困っているか聞いてから決める」という考え方が出てきている。

10歳児―「知っている子は助ける」「何もしない」,「機嫌のいい時は何かしてあげる」等。

幼・小〈21〉－「お友達があなたの大事なものを貸して欲しいといったらどうしますか」

4歳，5歳，6歳児－「貸す」,「貸さない」の単純な答えのみ。

7歳児～10歳児―7歳児から他者認識の変化と共に物に対する認識の変化も観られる。

幼・小〈22〉－「きまりを守らないお友達を見たらどうしますか」

4歳～7歳児―「駄目よって云う」,「約束を守ってね」,「いけないと教えてあげる」,「注意する」,「きまりを云ってあげる」の他，7歳児から「そっとしておく」,「むっとする」,「そのまま通りすぎる」等，気持ちを表す回答が出てくる。

10歳児―「注意しようと思っても恐くてできない」等，現実に根差した回答が表れる。

No.〈20〉の設問では6歳児から自己と他者を区別して認識するようになっている。

No.〈21〉の設問では4歳児から6歳児までは主に「貸す」「貸さない」の単純な回答しか出ていないが，7歳児からは他者認識の変化と共に物に対する価値観が加わってきて，年令が上昇するにつれて単純ではない回答になってきている。

No.〈22〉では8歳児から他者認識の変化が観られる。

7歳児あたりに他者認識の対応の発達的変化があるとみられる。

表5　他者認識の設問に対する回答例

No.〈20〉あなたはお友だちが困っていたらどうしますか。

4歳児
先生に言う・どうしたのって言う

5歳児
どうしたのって聞いてあげる・ちゃんとしてあげる・何か言ってあげる

6歳児
どうしたのって聞く・一緒にやってあげる

7歳児
どうしたのと聞く・教えてあげる・話を聞く・できることだったらやってあげる

8歳児
どうしたのと聞く・一緒に考える・少し手伝う・好きな友達だけ助ける・ほっとく

9歳児
どうして困っているか聞いてから決める・相談にのってあげる

10歳児
一緒に考える・相談にのってあげる

No.〈21〉お友達があなたの大事なものを貸してほしいと言ったらどうしますか。

4歳児
貸してあげる・後で貸してあげる

5歳児
貸してあげる・ちょっとだけ貸してあげる

6歳児

貸してあげる・ちょっとだけ貸してあげる
7歳児
貸してあげる・だめ・人によって違う
8歳児
貸してあげる・人によって違う・だめ・こわさないようにと言って渡す
9歳児
貸してあげる・だめ・人によって貸す
10歳児
貸してあげる・だめ・貸してあげる時もある

No.〈22〉決まりを守らないお友達を見たらどうしますか。

4歳児
先生に言う・いけないと教えてあげる・怒る
5歳児
だめだよって言う・もう遊ばないことにする
6歳児
注意する・教えてあげる・怒る
7歳児
注意する・もう遊ばない・にらむ・嫌い
8歳児
注意する・ほっとく・にらむ・むっとする
9歳児
注意する・しらける・しらんぷり
10歳児
注意する・注意しようと思ったけど恐くてできない・ほっとく・怒る

予備調査〔Ⅳ〕

これまでの調査においては主に4歳～10歳児を対象に分析してきたが，今回は新たに3歳児の調査を加え，各年令の人数を均等にし，集計と分析を行った。

1．対象児：3歳～10歳児各年令40名ずつ

2．調査期間：平成1年10月～平成4年12月

3．調査区域：北海道，関東，中部地域

4．調査方法：3歳～6歳児は保育者が面接において子どもの回答をそのまま記録した。7歳～10歳児は子ども自身が回答用紙に記入した。

5．分析方法

1) 質問項目及び回答の適性の検討を行った。3歳～10歳児までどの年令においても回答が画一的なものか，年令的変化が見られない項目はカットした。

2) 質問に対する年令的回答水準の目安を80％とし，60～70％回答率は今後再調査を繰り返し行い検討することにした。

3)　1，2名の回答であってもそこに認識の発達的変化を見るために，有意な回答と判断した項目は採り上げて検討してみた。

4)　各年令児において回答0の質問項目は除外することにした。

内容と回答

回答80％ラインを中心に特記できる項目を採り上げてみる。

〔自己認識〕

No.1)「あなたの名前は何といいますか」

No.2)「あなたは男ですか，女ですか」の質問では3歳児は90％，4歳児は100％回答であったので，この項目は3歳児のみの質問項目とした。

No.3)「あなたが他の人より，こんなことができるということはどんなことですか」では，6歳児から80％の回答であり，4歳児の段階では40％の回答で「でんぐり返しができる」,「お当番が一番」,「お絵かき」等，自分自身が日常行っている行動に関する身近な答えが多い。

No.4)「あなたは自分の考えはいつも正しいと思いますか」の②「それは何故ですか」に対して，5歳児の回答は10％で，明確な理由の答えは少なく，6歳児になると60％解答で「親の方が考えがあるから」,「なんでも当るとは限らない」,「勉強を間違えたことがある」という考え方が表れてくる。

No.5)－①「あなたは大きくなったら何になりたいですか」の②「それは何故ですか」に対しては，4歳児60％の回答では「ケーキ屋」,「白バイの運転手」と答えているが，理由を問うと「分らない」と答える子が多いが,「看護婦さん」に関しては―怪我した人を助けるから―という答えを出す子も出てきている。7歳児80％では理由づけが明確化してくる。「スシ屋」―マグロが食べたいから,「お医者さん」―人を助けるから,「電車の運転手」―かっこいいから,「花屋さん」―お花がきれいだからいっぱい育てたい，等。

No.6)「お父さんの仕事は何ですか」の②「お父さんはどうして仕事をするのですか」では，6歳児から「お金をもらうため」の回答が増えてくる。

No.9)－①「世界で一番えらいと思う人は誰ですか」は，4歳児から「お父さん」,「神様」の答えが出てくる。

No.10)「どういう人を大人だと思いますか」では，4歳児は「お父さん」,「お母さん」など身近な大人を例にあげている。9歳児90％では「20歳を越えている人」,「責任をもってビールを飲んでいる人」から，10歳児になると「社会の中を進んでいけて自分の気持ちを通し，よく考えて行動する人」という答え方も出てくる。

No.11)「大人の考えはいつも正しいと思いますか」,②「それはどうしてですか」に対し，7歳児から「考えが違う時がある」の答えが出てくる。10歳児80％になると「うそをつくかも知れない」,「うそをつく時もある」等，大人に対する不信が芽生えてきている。

表6　各質問に対する解答の適性水準

●は80％を超える年齢

質問項目	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳
［自己認識］								
1　あなたの名前は何といいますか（3歳児のみ）	●							
2　あなたは男ですか，女ですか（3歳児のみ）	●							
3　あなたが他の人よりこんなことができるということはどんなことですか				●	●	●	●	●
4①あなたは自分の考えはいつも正しいと思いますか		●	●	●	●	●	●	●
②それはなぜですか					●	●	●	●
5①あなたは大きくなったら何になりたいですか					●	●	●	●
②それはなぜですか					●	●	●	●
［他者認識（対おとな）］								
6①あなたのお父さんのお仕事は何ですか			●	●	●	●	●	●
②お父さんはどうしてお仕事をするのですか						●	●	●
7①あなたのお母さんのお仕事は何ですか		●	●	●	●	●	●	●
②お母さんはどうしてお仕事をするのですか								●
8①あなたはお父さんのために何かしてあげていることがありますか			●	●	●	●	●	●
②あなたはお母さんのために何かしてあげていることがありますか		●	●	●	●	●	●	●
9①世界中で一番偉いと思う人は誰ですか		●	●	●	●	●	●	●
②それはどうしてですか								●
10　どういう人をおとなだと思いますか							●	●
11①おとなの考えはいつも正しいと思いますか			●	●	●	●	●	●
②それはどうしてですか								●
［他者認識（対こども）］								
12　あなたはお友だちが困っていたらどうしますか			●	●	●	●	●	●
13　お友だちがあなたの大事な物を貸してほしいといったらどうしますか		●	●	●	●	●	●	●
14　きまりを守らないお友だちを見たらどうしますか		●	●	●			●	●
［生物との関係］								
15「生きている」とはどういうことですか						●		●
16「死ぬ」とはどういうことですか			●			●	●	●
［物との関係］								
17　ほしいものがあったらどうしますか			●	●	●	●	●	●
18　あなたが一番たいせつにしている物は何ですか		●	●	●	●	●	●	●
19　お金はどうしてお家にあるのでしょう			●	●		●	●	●
20　人間が生きていくためにどうしても必要なものは何でしょう				●		●	●	●
［社会事象］								
21　天気予報は何のためにありますか				●	●	●	●	●
22　みんなのためになる仕事をしている人をあげてください					●	●		●
23　日本とはどういう国だと考えますか						●	●	●

〔他者認識〕――対子ども――

No. 13)「お友達があなたの大事な物を貸して欲しいと云ったらどうしますか」では，7歳児になると「人によって違う」,「壊さないでって云って貸す」という単純な「貸して」,「いいよ」というやり方よりも自分の物という認識が強くなってきている。

No. 14)「きまりを守らないお友達を見たらどうしますか」。4歳児80％は「注意する」という単純な答えが出てくるが，7歳児70％は「そっとしておく」,「むっとする」という気持ちを表す回答が出てくる。10歳児90％では「注意しようと思ったけど恐くてできない」というような他者との関わりが複雑になった認識の変化が表れる。

〔生物との関係〕

No. 15)「生きているとはどういうことですか」は，10歳児で「命が与えられている」ことの認識をもってきている。

〔物との関係〕

No. 20)「人間が生きていくために必要なものは何でしょう」。6歳児80％の回答の主なものは「お金」,「水」,「食べ物」の答えである。

ま と め

1　予備調査〔Ⅰ〕では，質問項目及び内容の検討を行い，意味のない質問はカットし，新たな質問項目を作成した。

2　予備調査〔Ⅱ〕では，質問内容と年令の妥当性を検討した。その結果，小学校3年生頃から社会性の発達の変化期になるのではないかということが推察され，次回からは調査対象児の範囲を3歳から10歳児に広げて行うことにした。さらに子どもが「生」と「死」の問題をどの年令児あたりから関心をもち始めるのかを観察しようとして，新しい質問項目「生物との関わり」を作成した。

3　予備調査〔Ⅲ〕では，4種類の分析を行った。

(1)　各年令児の認識の芽生えとその発達的変化を観察した。

(2)　年令別に30％以上の子どもが答えられなかった設問「無回答」,「分らない」の回答を取り出し検討した。「母親の仕事」については，4歳児ではまだ身近の母親の働きを認識されていない。9歳児では「仕事」という意味を考え出す時期に入ったと推察される。「えらい人」の認識は4歳～6歳児では身近な父母であるとみられる。

(3)　9歳児の段階で回答に下降現象がみられている。これは小学校3年生頃から〔論理的思考の発達と知覚による支配からの脱却期〕に入ると云われているが，このわずかな資料からもその発達的変化が推察できよう。

(4)　回答率の高かった設問を取り出し分析した。6歳児から自己と他者を区別して認識することが

分った。7歳児あたりから他者認識の対応の発達的変化がみられると推察される。

4　予備調査〔Ⅳ〕

どの年令児においても回答に画一的なものか，年令的変化が見られないものをカットし，回答適性水準の目安を80％とした表を作成した。

現在は予備調査の段階であるが，上記の結果から子どもの社会事象の認識の発達的変化が推察されよう。今後更に調査を進めることによって，発達過程を見通せる適切な質問紙を作成したい。

謝　辞

本研究を進めるに当って多くの方々の御協力，並びに御助言を頂いたことに対して深く感謝いたします。

注

注(1)「社会認識」の発展段階を簡潔に述べる。

子どもの認識成立の発達過程は，(A)感性的認識→(B)，客観的認識→(C)，主体的認識→(D)，体験的認識に到達する。

(A)の感性的認識は，乳児期の微笑反応に始まる母子関係から，周辺環境への発達過程をさし，認識活動の前段階である。

(B)の客観的認識は，探究心に支えられた対象の本質を客観化する4つの段階の中心である。

(C)の主体的認識は，自己の内部構造を拡大，深化し，自己の確立に役立てる段階である。

この(A)～(C)の段階をふんで社会事象の本質を把握し，行動の自己決定がなされると考える。子どもの認識の発達過程はおおむね(A)～(C)の3つの段階を中心に社会認識も発展すると考えられる（大森・川村・永田，1985)。

引用文献

(1)　J. Piaget「Genetic Epistemology」Columbia University Press 1970

(1)′　芳賀純訳，J. ピアジェ「発生的認識論」評論社，1972

(2)　J. Piaget: Les Me'canismes Perceptifs Press Universitaires de Gravee 1961 (The Mecanism of Perception. Tr. by G. N. Seagrim. Routledge Kagan Paul. 1969)

(3)　三木安正「新S－M社会生活能力検査―乳幼児～中学生―」日本文化科学社，1982

(4)　中里至正「道徳的行動の心理学」有斐閣選書，1985

(5)　大森照夫「新社会科教育基本用語辞典」明治図書，1986

(6)　大森照夫・川村登喜子・永田桂子「社会性育成に於ける幼・小関連教育」日本保育学会第35回大会論文集，1985

(7)　祐宗省三・堂野恵子・松崎学「思いやりの心を育てる」有斐閣新書，1983

(8)　鈴木清「田研式社会成熟度診断検査手引―3歳～小学1年適用―」日本文化科学社，1965

(9)　津守眞「乳幼児精神発達診断法―0歳～3歳―」大日本図書，1961

(10)　津守眞「乳幼児精神発達診断法―3歳～7歳―」大日本図書，1965